

「関西道路研究会道路橋調査研究委員会 新設小委員会 調査研究内容」

設立趣意書

橋梁点検新技術に関する調査研究小委員会（ドローン等）

委員長 関西大学 石川 敏之 教授  
推薦学識員 大阪工業大学 今川 雄亮 准教授  
推薦学識員 大阪大学 寺澤 広基 助教

平成26年度（2014年度）から始まった5年に1度の近接目視による橋梁の定期点検は2巡目が完了予定である。

この間、国においては、定期点検における近接目視を補完、代替、充実する新技術の導入推進などを目的に道路橋点検要領が改訂され、ドローンの試行的導入など新たな取組みが進められているところである。

そこで本小委員会では、以下の内容について調査を行う。

- ・橋梁定期点検に関する新技術の導入事例収集
- ・橋梁定期点検への新技術導入に関する課題（経済性、点検精度等）や新技術の優位性等の検討
- ・洗堀調査に関する新技術導入可能性の検討

なお、本小委員会では、産官学間の垣根を取り払った委員相互での率直な意見交換をもとに、上記課題の解決に資する有効な資料としてとりまとめるものである。

## 「関西道路研究会道路橋調査研究委員会 新設小委員会 調査研究内容」

### 設立趣意書

#### 橋梁診断新技術に関する調査研究小委員会（A I 等）

委員 長 立命館大学 野阪 克義 教授  
推薦学識員 立命館大学 野村 泰稔 教授  
推薦学識員 立命館大学 川崎 佑磨 准教授

平成26年度（2014年度）から5年に1度の法定定期点検が始まり、点検における新技術の導入推進がなされ、試行的な取組みも進められているところである。

橋梁の老朽化が進展していく中、点検結果を効率的かつ効果的に診断する技術の開発が望まれている。

一方、技術者の高齢化は社会的課題でもあり、課題解決に向けて、今後の技術者不足に備えたA I 技術などの導入可能性検討など、異分野も含めた診断に関する新技術導入など、新たな取組みを橋梁の維持管理に展開していくことを視野に入れて議論していくこととしたい。

そこで、本小委員会では以下の内容について調査を行う。

- ・新技術を用いた診断技術に関する知見収集
- ・異分野も含めたA I などの新技術導入可能性の検討
- ・診断に関する技術力の向上や技術者の育成に向けた検討

なお、本小委員会では、産官学間の垣根を取り払った委員相互での率直な意見交換をもとに、上記課題の解決に資する有効な資料としてとりまとめるものである。

## 「関西道路研究会道路橋調査研究委員会 新設小委員会 調査研究内容」

### 設立趣意書

#### 橋梁部材の対策技術に関する調査研究小委員会（ケーブル 液状化等）

委員長 京都大学 古川 愛子 准教授

推薦学識員 大阪大学 廣畑 幹人 准教授

推薦学識員 京都大学防災研究所 上田 恭平 准教授

全国的に橋梁の高齢化が進展している中、可能な限り橋梁の長寿命化を図り、耐震性、耐荷力等の向上も含めて、維持補修補強工事が行われてきた。

一方、これまで建設されてきた長大橋については、架設以降、相当の年数が経過していること、港湾地域に多数存在しているなど、顕在化してきた課題として、ケーブルの劣化に伴う張力低下問題や、液状化に関するものがある。

ケーブルについては、構造的に容易に目視することが難しく、その張力確認や補修、更新などに関しては知見が少ないといった状況である。

液状化については、橋梁が防災計画上の緊急交通路・避難路上など重要な道路ネットワーク上にある場合もあり、国の動向をみながら、その耐震対策の検討が急務となっている。

そこで、本小委員会では以下の内容について調査を行う

- ・ケーブルの張力確認技術、補修技術、更新技術など、全国的な現状、課題を調査する
- ・橋梁の液状化対策について、全国的な技術的知見、道路管理者の動向等を調査する
- ・ケーブル維持管理や液状化対策に関する新技術の導入可能性検討を行う。

なお、本小委員会では、産官学間の垣根を取り払った委員相互での率直な意見交換をもとに、上記課題の解決に資する有効な資料としてとりまとめるものである。